

Subject : **Japanese**Production of Courseware  
e- Content for Post Graduate CoursesPaper No. 02 : **日本語学 (Japanese Linguistics)**Module 01 : **世界の言語と日本語 (Languages of the World and Japanese)****Development Team****Principal Investigator:** **Prof. Anita Khanna**  
Jawaharlal Nehru University, New Delhi**Paper Coordinator:** **Prof. Prashant Pardeshi**  
The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)**Content Writer:** **Prof. Prashant Pardeshi**  
The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)**Content Reviewer:** **Prof. Kaoru Horie**  
Nagoya University

Japanese

Japanese Linguistics

世界の言語と日本語 (Languages of the World and Japanese)

Description of Module	
Subject Name	Japanese
Paper Name	日本語学 (Japanese Linguistics)
Module Title	世界の言語と日本語 (Languages of the World and Japanese)
Module ID	JPN-P02-M01
Quadrant 3	Learn More

ePathshala  
पाठशाला  
A Gateway to All Post Graduate Courses

Japanese

Japanese Linguistics

世界の言語と日本語 (Languages of the World and Japanese)

### Quadrant 3: Learn more

さんこうぶんけん

#### 参考文献

金田一春彦 (1981) 『日本語の特質』 日本放送出版協会.

角田太作 (1991, 2009) 『世界の言語と日本語』 くろしお出版.

Comrie, Bernard (1989) *Language universals and linguistic typology: Syntax and morphology*. 2nd edition. Chicago: University of Chicago Press. (『言語普遍性と言語類型論—統語論と形態論』 第2版, 松本 克己, 山本 秀樹 (訳), ひつじ書房, 2001.)

Croft, William (2003) *Typology and universals*. 2nd edition. Cambridge: Cambridge University Press.

Greenberg, Joseph H (1963) Some Universals of Grammar with Particular Reference to the Order of Meaningful Elements. In Joseph H. Greenberg (ed.) *Universals of Human Language*. pp.73-113. Cambridge, Mass: MIT Press.

Heinrich, Patrick, Shinsho Miyara, and Michinori Shimoji (eds.) (2015) *Handbook of the Ryukyuan Languages* (Handbooks of Japanese Language and Linguistics [HJLL] Series, Volume 11). Berlin/Boston: De Gruyter Mouton.

Masica, Colin (1976) *Defining a linguistic area: South Asia*. Chicago: University of Chicago Press.

Ramat, Paolo (2011) The (early) history of linguistic typology. In Jae Jung Song (ed.) *The Oxford handbook of linguistic typology*. pp.9-24. Oxford: Oxford University Press.

Shibatani, Masayoshi (1990) *The Languages of Japan*. Cambridge: Cambridge University Press.

Whaley, Lindsay J (1997) *Introduction to typology: The unity and diversity of language*. Newbury Park: Sage. (『言語類型論入門 言語の普遍性と多様性』 大堀壽夫・古賀裕章・山泉実 (訳), 岩波書店, 2006.)

## Interesting facts

### げんごちず 言語地図① : WALS

World Atlas of Linguistic Structure (WALS) という世界の諸言語の音韻、語彙、文法的

とくちょう ちずじょう ひょうじ  
特徴を地図上で表示してくれるデータベースがあり、以下のウェブサイトで無料で  
りょう  
利用できる。

<http://wals.info/>

### げんごちず しえきこうたいげんごちず 言語地図② : 「使役交替言語地図」 (The World Atlas of Transitivity Pairs (WATP))

しえきこうたいげんごちず  
「使役交替言語地図」 (The World Atlas of Transitivity Pairs (WATP)) は、世界の言語の  
ごいてきゆうついでうし しゅうしゅう ちりるいけいろんてき  
語彙的有対動詞を収集した地理類型論的なデータベースである。語彙的有対動詞は  
しえきこうたい さんよ たど にほんご じどうし あ たどうし あ  
使役交替に参加する。例えば、日本語の自動詞「開く」と他動詞「開ける」では、「ド  
ひら たろう あ  
アが開いた」, 「太郎がドアを開けた」のようにペアとなって現れる。世界の言語で  
じたどうし つい かくにん  
もこのような自他動詞の対が確認される。

げんご ゆうついでうし はせい ほうこう ひかく るいじてん そういてん  
WATP では 60 言語における有対動詞の派生の方向を比較し、その類似点と相違点を

せかいちずじょう かくにん けんきゆうもくてき げんだいにほんご じたどうし ほうかつてき  
世界地図上で確認できる。また、研究目的で現代日本語の自他動詞の包括的なデータ、

およびすべての言語の自他動詞のデータ (31 対) をダウンロードして利用することも  
 できる。WATP は以下のウェブサイト無料で利用できる。

<http://watp.ninjal.ac.jp/>

WATP は、地図およびチャートの 2 つのインターフェースを利用して、Haspelmath  
 (1993) で提唱されている次の 2 つの観点から有対動詞の形式的な関係を可視化してい  
 る。

(1) 個々の動詞対の派生型の選好 (意味と形式の類像性の可視化)

(2) 各言語の派生型の選好 (各言語の「類型論的な特徴づけ (typological  
 characterization)」の可視化)

また、派生の方向の動機づけに関する Haspelmath (1993) の類像的な説明を検証するこ  
 とも可能である。

### 地理類型論的な研究

言語現象を世界地図上に示してその地理的分布を考察する優れた研究の一つは  
 Masica (1976) である。この研究によると「テ形」のような不定の形式で節を繋げる  
 方法 (歯を磨いて、朝ご飯を食べる) , 2 つの動詞から構成される複合動詞 (例: 書い  
 ておく, 食べてみる, 飲んでしまう) , 接尾辞による使役の派生方法 (例: 食べる → 食

べさせる、読む→読ませるなど) は東アジア、南アジア、中央アジアの言語に共通

する文法的特徴である。

### 母語話者数による言語のランキング

世界の言語を母語人口の多い順に配列すると、2016年現在、日本語はトップ10に入る大言語であり、中国語、英語、スペイン語、ヒンディー語、アラビア語、ポルトガル語、ベンガル語、ロシア語に次ぐ第9位を占める。

### インドで話されている言語の多様性

インドで話されている言語の多くは系統的な観点から、次の5つの語族に分類される。

①インド・ヨーロッパ語族 (ヒンディー語、パンジャービー語、ベンガル語、オリヤー語、マラーティー語、グジャラティー語など)、②ドラヴィダ語族 (タミル語、テルグ語、カンナダ語、マラヤーラム語など)、③オーストロアジア語族 (カシ語、サンターリー語、ムンダーリー語、カリア語など)、④シナ・チベット語族 (チベット・ビルマ語派、ナガ語、ボド語、ガロ語など) ⑤アンダマン諸語 (ジャラワ語、オンゲ語など)。

マハーラーシュトラ州およびマディヤ・プラデーシュ州で話されているニハーリ一語 (Nihali, 話者約2千人) は、その周りで話されているインド・アーリア語派、ド

ラヴィダ語族<sup>ごぞく</sup>，ムンダ語派<sup>ごは げんご</sup>の言語<sup>しゃくようご</sup>からの借用語<sup>おお</sup>が多いが，これらの語族・語派の言語と  
系統関係<sup>けいとうかんけい</sup>がなく，孤立語<sup>こりつご</sup>と見なされている<sup>み</sup>。

\*\*\*\*\*

